

FOMC（28－29日）のコンセンサス（東京時間：30日3時に発表）

- 政策金利は3.50－3.75%と3会合連続で据え置きへ
- FOMC声明に大きな変更は無く、次の利下げ時期は未定との示唆は継続へ
- パウエル議長（5月15日議長任期満了）の発言も前回会合とほぼ同じ内容へ
- 市場は無風通過の公算が大きい
- 今後は次期FRB議長指名のウォーシュ氏の発言に注目

ケビン・ウォーシュ次期FRB議長の発言（上院の指名公聴会）

- 07年以降に導入されたドットチャートなど「市場との対話」が減少する可能性
- トランプ大統領によるFRB攻撃に一定の理解を示す

インフレ	インフレの改善は進んでいるが、依然として課題は残る
	2021～22年の政策対応の遅れが、現在の高インフレにつながった
	インフレ指標はテールリスクを排除した「トリム平均」を重視
景気	経済は概ね完全雇用にある
	AIによる生産性向上の可能性があり、FRBは過度に悲観すべきではない
	AIが労働市場に与える影響が明確になるまでの間、FRBはその影響を注視すべき
独立性	トランプ大統領から特定の金利水準を求められていない
	大統領が金利を決めるべきではないという立場
	政治的圧力があっても独立性は維持されるべき
バランスシート	非常時の金融緩和が長期化し、現在のインフレの一因となった可能性
	バランスシート政策は資産保有層に有利で、不公平を生みやすい
	財務長官と連携しながら縮小手法を検討すべき
対話	FRB当局者が金利見通しを過度に示唆する傾向を問題視
	フォワードガイダンスの信頼性は低下しており将来の政策を事前に約束すべきではない
	法令で義務付けられている年4回のFOMCでは少なく、より多い頻度の開催が望ましい